

ALL LINER® NEWS

ALL LINER® ASSOCIATION

2003.2.20 vol.11 (新春号)



(上) 航空写真 写真提供：笠置氏 (有)北九州清掃美化センター
上空から望む関門海峡全景
左手前には武蔵、小次郎の対決の舞台となった「巖流島」



写真提供：北九州市広報室
(中) 武蔵の碑 (下) 小次郎の碑

CONTENTS

役員年頭の挨拶	2~3 ページ
新年を迎えて	4~5
寄稿：ISO/TC224の動向	6
技術情報	7~9
平成14年度統括監理者試験	10~11
事務局だより	12~13
青年部より	13
会員名簿	14
支部だより	15~16

役員年頭の挨拶

会長を引き受けて

オールライナー協会 会長 **松本 浩治**
(東海下水道整備株式会社 社長)

会長を引き受けて、早いもので半年が過ぎました。この間、協会会員および事務局の皆様には、協会活動・運営にご協力いただきまして、誠に有難うございます。私は一昨年(2001・8)肺がんの告知を受けまして余命2年の宣告をされました。昨年2月に3回目の抗がん治療、6月末に4回目の抗がん治療をしました。一時は白血球が2千200まで下がり緊急入院もありましたが、おかげさまで家族の介護、主治医の賢明な治療が功を奏して、今はポリープも影を潜めております。病気を気づかないが、体を大事にしています。

中村常任理事から長谷川前会長が任期途中で退任するとの話がありました。後任に「会長を引き受けてくれ」とのことでしたが、まだ入退院を繰り返していましたが協会のことを考えたなら引き受ける訳にはいきませんでした。20社以上の会員にご迷惑をお掛けすることが決まっているからでした。中村常任理事は自信をもって、「万が一にも何か有った時は責任を持ちます」と口説かれました。いろいろ考えてみましたが、今現在生きているのも社会の皆様のおかげです。私には、強い後ろ楯(前会長・中村常任理事)がいますから安心して引き受けることにしました。おかげさまで現在は理事会・委員会・各種会合に出席することも大丈夫なまでにりました。

日本の下水道の人口普及率は63・5%となっています。管路延長も34万kmを上回ったところ。すでに耐用年数で目安となる50年を経た管路も、5千kmを超えています。一部老朽化した箇所では事故が報道されるようになりました。普及率の向上に隠れ、管理・メンテナンスが見過ごされてきました。今後、下水道管渠更生も飛躍的に普及するものと考えます。オールライナーも一昨年約30km、今年度はすでに11月末で20kmの実績です。今年度末には40kmを超えるものと思えます。三谷技術委員長の言葉にありますように、オールライナー技術の優位性は、「環境に優しく、施工し易い」に代表されると思います。この2つのポイントに注目ができ、事業として魅力ある「工法」を目指して、協会・会員・メーカーが三位一体となって、技術の開

寒中お見舞い

申し上げます

オールライナー協会 副会長 **九州支部長 永野 刀男**
(環境開発興業株式会社 社長)

発改良に取り組めるように、三者の信頼を築いていただき、施工技術集団のオールライナー協会として、官民の信頼をいただけるような協会を目指しています。どうか、皆さんの絶大なご支援をお願い致しますと共に、協会の益々の発展を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。

本年も皆様方のご企業共々にオールライナー協会が隆々と発展するよう、また、皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

昨年、国内外において経済、政治問題などが大きく取り上げられた年でした。特に国内は長期の経済低迷により雇用不安など大変厳しい状況にあります。私たちの業界も多大な影響を受けていることと思えます。このような状況下、昨年11月、北九州において技術委員会主催で行われた高効率施工の研修会に多くの会員の方が参加されたことはとてもなごさず、会員

また、九州地区での実績は2km(H11年)、4km(H12年)、6km(H13年)と順調に推移しております。



鎌倉大佛
作：元会長 平井顯一 (平井工業株)

す。今年度は従来の北九州、長崎地区を主体とした施工実績から、会員数の増加とあいまって、福岡市、鹿児島市での新たな受注に結びつき、平成14年度の目標である10km施工へさらなる施工実績の拡大が期待できるものと考えます。地道ではあっても着実な成績を積み重ねることが客先の信用を勝ち取ることに繋がります。常日頃から私が社員や支部の方へお話ししていることですが、「安全で、良いものを、納期通り」の仕事をするのが、お客様の信頼を勝ち取り、着実な実績につながるものと考えております。

今後とも全国の会員の方へのお手伝いと地区内の営業面、施工面等に優れた会員様の掘り起こしを通してオールライナー協会の事業推進拡大のため微力ながら、お役に立ちたいと思っております。今後とも今まで以上のご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

明けましておめでとうございます

(2003年・羊年・年男)

オールライナー協会 理事・東北支部長 **石黒 望**
(豊興産株式会社 社長)

本年もよろしくお祈り致します。昨年より新聞紙上またニュース等では、デフレ不況から脱出できない経済・企業倒産による失業率の増加、そして財政悪化による緊縮予算・公共事業削減など毎日のように暗いニュースばかりが賑

わっております。しかし、我々の業界(維持管理・修繕・改築)の実績は確実に増加しており、暗い中にも少し明るい兆しが見えてきております。この需要に対し、オールライナー工法が他工法より今まで以上受注してい



鎌倉八幡宮
作：元会長 平井顯一 (平井工業株)

ただけるよう、情報を収集し、協会・支部内での情報・意見交換を活発に行うとともに、技術の向上・コスト削減への対応を図りながら実施していくことが必要ではないかと思えます。

まだまだ厳しい状況が続くと思えますが、皆様とともに協会・支部の発展のため、そして2003年が幸多き年になりますように頑張ります。

新年を迎えて

激動の2003年

常任理事

中村 勝巳

これから迎えるとする激動の21世紀。近年の社会情勢は大きな変革が進んでおり、グローバル化の進行、少子高齢化社会への移行、高度情報化の進展、新たな官民のパートナーシップの形成など、社会全体の構造改革が求められている状況にあり、あわせて、地方分権の推進や行政への住民参加等の取り組みが進められつつあります。

下水道整備が進み、管理すべき施設ストックが増大するにつれて、その維持管理費は着実に増加しており、今後、普及率が向上するにつれて、維持管理費はさらに増加していくと予想されます。今後の下水管路施設の維持管理の中心は中小市町村が占めることとなりま

すが、こうした都市では、一般に財政面、組織面の基盤が弱いケースが多く、下水道経営の中で、維持管理の質を確保しつつその管理コストを削減し、効率的に維持管理を行うことは、地方自治体の厳しい財政状況に鑑みても、現下の緊急課題であると考えます。

現在、下水道施設の内、処理場施設等については一部民間に委託されていますが、わが国では、予め定められた仕様に基づき民間委託をなされているのが現状であり、効率的なコスト削減に対応したインセンティブが民間に働かなかつたり、委託、受託間の責任分担が曖昧であることから、民間からの業務改善について、業務の効率化が進みにくい傾向にありました。

これからは、民間委託の手法として、民間事業者に対して施設管理に一定のパフォーマンスの確保を条件として課しつつ、維持管理

手法の詳細については民間に任せ、方向で推移していくものと期待しています。

特に、管路施設では下水道管、人孔、柵、取付管等、すべてについて、総合的な維持管理を長期的視野から計画的な維持管理を3年から5年のスパンで策定します。中長期的時系列変化を勘案した維持管理調査をシステム化することによって、総合的な観点から経済的、効果的な補修工法を選定し、事業発注されることが予想されます。

新年挨拶

常任理事

大塚 捷徳

皆様、明けましておめでとうございます。新年を迎え一言挨拶を申し述べさせていただきます。

昨年までは、技術委員長を拝命しておりましたことから、一年間の技術委員会の活動報告と、抱負を書かせていただいております。

技術委員会は、昨年6月より三谷新委員長にバトンタッチでき、若返り、また彼の強力なリーダーシップで着実に前進しています。

頼もしく思うと共に、一層の飛躍を期待しています。さて、昨年の10月、米国のWEF（日本で言う上下水道展）に10年振りに参加する機会を得ました。米国の下水道の動向で感ずる所が少々ありましたので、紹介させていただきます。挨拶に代えたく思います。

日本の下水道技術は、欧米に比較して、これまではだいたい10年遅れくらいで新技術が日本に定着している傾向に有りました。最近では情報化時代へ突入すると共にポーターレスになりスピードが相当上がってはいますが、下水道での力点が米国と日本です。いふんと違ってきているように思いました。まず第一印象ですが、10年は、結構な長さ（時間）を痛感しました。過去の大手ENVIROTEX、ENVIROTEC等などがどこか

の傘下に入り名前が無くなりました（日本で言うと、例に挙げて申し訳ありませんが、荏原、クボタなどの名前が変わって無くなっているようなことです）。

- 技術面では、
- ①水処理
曝気関連
ラバーのデフューザー一色
滅菌
紫外線照射をかなりの数の会社が着目
高度処理
全く見られず二次処理も簡易な方向
 - ②汚泥処理
熱（焼却、溶解、炭化など）
関連展示は皆無
 - 脱水
ほとんど遠心
減容
ほとんど関心無し
 - ③水道
膜処理に着目
 - ④管更生
マンホールの補修を含めかなりの展示あり

ただし、PVCの引き込みは見られず（この10年で消滅か？）。パイプバーストは散見（それは

どの市場とは考えにくいですが、今後ケースにより採用があるので

は）全体では、合流改善とポンプ圧送が花盛り（各社の力点）でした。世界中が（経済の悪化により）低コスト化に流れており、我々の維持管理、再構築の分野には、強いフォロワーの風が吹いているように思えます。

新年に当たり、ぜひとも日本でも吹きつつあるこの風にうまく乗って、オールライナー協会の皆様、大きく飛躍していただけたらと希望しています。そのためにも、タイムリーな情報の取得と開発の継続が必要です。私も、微力ながら、できる限りの応援をさせていただきます。皆様のご協力、ご支援の程宜しく御願ひ申し上げます。

2003年を迎えて

技術委員長

三谷 久夫

新年おめでとうございます。

日頃は協会活動に御協力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、2003年年度にあたり昨年1年間の技術委員会活動を振り返るとともに、本年の活動について日頃考えていることを述べてみたいと思います。

2002年委員会活動として技術委員会3回、施工現場見学会、積算改訂会議、技術管理者試験、統括監理者研修試験のほか、新入会員向け施工研修会4回を開催しました。

この他、名古屋下水道展、各地PRデモ等、広報委員会活動にも技術的応援を行いました。さて、これら活動の中で例年と比べ新たに企画した活動として「施工現場見学会」が挙げられます。施工内容は、3本のライナーを1日で形成するというもので、極めて効率良く工事が進行していました。

使用材料でも工夫が見られ、ホース面では廃棄余尺を省き、樹脂では臭気発生を抑えるALOF仕様を採用し、時間短縮を行って

ました。この見学会の目的は、会員の技術向上を目指したものです。すなわち、他会員の施工を実際に自身の目で見ることに、（長所は見習い）（短所は指摘する）ことで会員の技術を相互にレベルアップすることにありました。

この企画には北は仙台、南は鹿児島まで全国から会員（56社80人）のご参加をいただきました。感想を伺ってみますと、「大変参考になった、見習いたい」との声が多く、主催者として「ホッ」としていると同時に、このような企画を本年も継続していきたいと思っ

ています。なお、本見学会は九州支部長、環境開発興業様の多大なご尽力によって開催運営できました。紙面を借りてお礼申し上げます。最後に、技術委員会運営について日頃考えていることを述べてみたいと思います。

「管更生」のビジネスは下水道のみならず「管」を用いるあらゆる分野にこのニーズが存在します。したがって、このビジネスのフィールドにはあらゆる分野からの参入があり、現時点でスパン更生だけでも公的認定を得ている工法が13工法協会（15工法）存在し、さらに年々増える傾向にあります。今後はこれらの工法間で激しい競争が始まり既に始まっている、最終的に生き残る工法としては数工法のみであろうと感じています。

このような状況下、当オールライナー工法が生き残る条件を考えたい時、「総合力」提案力を持っている工法が生き残る」と考えます。現時点では、選別の項目として価格、適用範囲、硬化ライナーの品質、施工性能等が比較されています。しかし、設計されたものを施工するに留まっていると言え

ます。ライナーの品質面では絶対の自信があり、他の面でも他工法に劣るとは思っておりませんが、今後は「ユーザーに如何に提案できるか、土木技術等を含む総合的な提案を

行い仕事を創る」がキーとなります。

維持管理の技術、土木技術、コンサルティング技術、これらを結集し、ユーザーに総合的に提案できる工法が生き残っていくと思っ

ています。幸い、当協会は土木工事専業、維持管理専業、コンサルタント等幅広い会員から構成されています。総合力結集の条件は整っています。技術委員会の活動はまさに協会員の総合力を高める「場」として運営し、ある種の「異業種交流会」でもあります。昨年の施工現場見学会も交流の意味ではこれにあたります。

業種の枠を飛び越えて会員の皆様「管更生のソフトからハードまで提案できる業者」となり得た時、激烈なサバイバル競争に勝ち残っていくと確信しています。会員の皆様の積極的な技術委員会活動への参加を重ねてお願い申し上げます。

ISO/TC224の動向

ISO/TC224下水道国内対策協議会 顧問 長谷川 健司
(管清工業株式会社 社長)



ISO/TC224の動向を説明する前に、ISOについて説明をした方がよいと思います。

ISOは元々英国で規格化されたIEC規格、電気に関する規格が基本にあり、この規格化の仕組みがISOに変わっていきました。規格の国際統一を目指し、国際間における貿易の障壁をなくすことが目的とされています。TC1番は、ねじの国際規格で、イソねじと言われているものです。

までも強制的に認証を取るのではなく、自主的な所に位置し任意に行うことが前提にあります。

今回提案されているISO/TC224も任意の規格であり、決して強制されるものではありません。それに9001や14001のような認証を受ける規格でもありません。あくまでも任意に水道や下水道のサービスを行う組織が規格として使っていくものです。

それでは何故フランスからこの規格が提案されたのかというと、世界各国が共通の規格で上下水道のサービス内容を比較すると一目瞭然であり、効率性、経済性、透明性等を簡単に見ることができ、また、各国の組織が品質管理、顧客の満足、環境保全を目指すことができると言われています。世界的に事業を展開する企業にとって共通の指標、規格で比較できることはある意味でPRし易いことになるのかもしれませんが、これは裏の事情であり、表は水の状態を健全に継続させていくことになると言われています。日本には同様な規格は上下水道界には存在しま

せん。この規格が制定される2006年7月にはこれをもって、全国の関係団体は評価を行うことになると思います。もし現在サービスを行っている組織が、他の組織と同様な規格や指標で比較すると、どちらが効率や経済性に優れているか明確になります。顧客の満足から考えると、効率や経済性の良い組織に取って代わっていくようになると思います。全国の各自治体は大変難しい環境に置かれることとなります。自らの変革を要求されているようなこととなります。

それでは我々、管路更生工事を行っている企業や協会は如何に考えるのかと言うと、今までの既成概念では考えにくいことになると予想されます。顧客の満足、つまり下水道利用者、つまり料金の支払い者から見ると納得の行く内容はどのようなことか、から考えていく必要があると思います。効率良く、経済的で透明性があることと考え、現在の組織(自治体)が民間企業(海外も含む) 包括的に下水道管理を任せられた場合、現在の指名制度、入札制度、契約等の方

法が変わると思います。地域や協会の枠決めがなくなり、仕事のできる所、確かな技術を保有する所、金額の安い所が選ばれ仕事を行うのではないのでしょうか。ただ、金額が安ければ良いというものでもないと思います。信用できる工法や企業であり、つまりその後の管路管理を考えれば信用が第一になると思います。管理は永久に続きますから一時凌ぎでは長続きしません。企業も長く下水道をお守りすることによって普遍的な価値を利用者に提供することができるとは思いません。

今後皆さんへ情報を提供していきたいと思えます。

技術情報

北九州施工現場見学会開催

オールライナー協会 技術委員長 三谷 久夫
技術副委員長 篠原 廣明

平成14年11月6日と7日の両日にわたり、技術委員会の主催によるオールライナー施工現場見学会を実施いたしました。

今回の主旨は、協会の技術向上の一環として、「日進量増大をいかにして行うか」を実際に見て学ぶことでした。日進量を大きくすること、すなわち生産性の向上がいろいろな点でメリットがあることは説明するまでもありませんが、標準的な施工方法をとる中でどうすれば実践できるかについては決まった答えは出ていません。そうした中で、北九州の協会員である環境開発興業(株)では1日に

数工区を施工しているという話をいただきました。お話を伺います

と、計画、段取り段階から綿密に検討するとともに機材も工夫することにより実現しているとのことでした。他の協会員にもぜひ紹介したいので実際の施工現場を見学させていただきたい旨お願いしたところ、快く承諾していただきました。施工見学会開催の運びとなりました。

協会員の皆さんに見学会参加のご希望を募ったところ、北は仙台から南は鹿児島まで56名もの申し込みがあり、皆さんの関心の高さが窺われました。

見学会は2日間にわたって実施しましたが、初日は、施工手順の机上研修を行いました。施工がスムーズにできるかどうかは事前の段取りがものを言います。このよう

な観点から事前検討や段取りについてもご教授を願ったわけですが、小倉ステーションホテルの会議室において、翌日行われる施工の工程表について(有)北九州清掃美化センターの笠置社長より説明していただきました。ただし、ただ話を聞くだけでは聞き流してしまいかねませんので、事前に施工スパンの平面図(図1)をお渡しし、「まず自分ならどうするかを考える」

ことをしていただきました。課題は3工区を1日の工程、しかも8:00から17:00の間でやっ

てしまうことです。各工区の内容は次のとおりです。
第3工区 φ200×t4.0mm×51・00m×穿孔6カ所

第4工区 φ200×t4.0mm×47・60m×穿孔3カ所
第6工区 φ200×t4.0mm×27・40m×穿孔2カ所
数人の方にご自分の考え方を紹介していただきました。引き続き笠置社長より実施工程のご説明

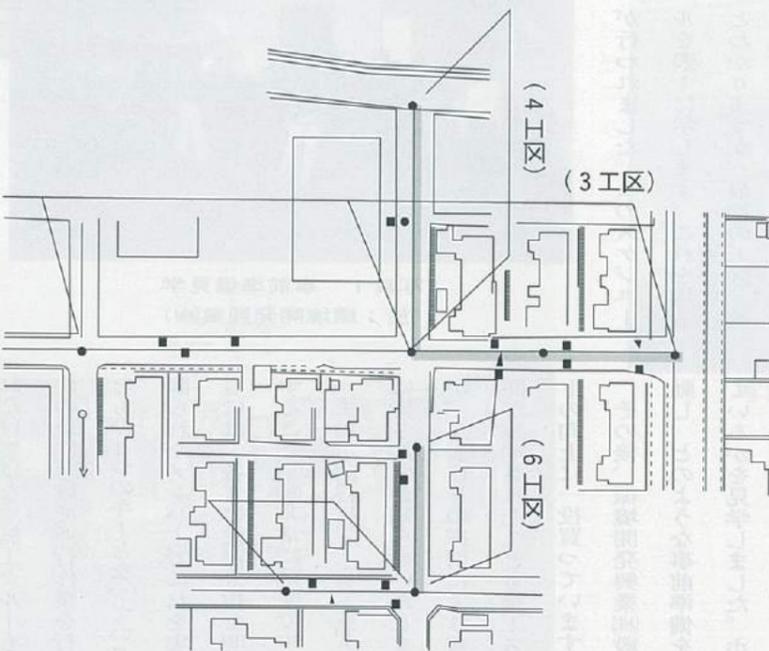


図1 施工現場の平面図

います。立ち上がり部分のホースは再使用が可能ですので廃棄物の減容にもなります。

2日目は施工現場見学です。当日は天候にも恵まれ格好の見学日和となりました。

施工は予定していたスケジュールよりも前倒しで進捗しました。例えば、予定では第6工区の加熱開始は10・40頃となっていました。が、実際には1時間ほど早い時点でスタートしています。したがって、管口切断も約1時間早く始まっています。このようなわけで、午前中に2本、午後1本というペースで作業は行われました。

施工クルーがどのように配置されて作業が行われているか、あるいは前日に見た発進側余尺短縮が実際にどのように行われているかといった点は参加された皆さんの最も関心の高い部分であり、熱心

に見学されていました。

また機材では、加熱車両として2回路式(独立した2回路の加熱系統を有する)ヒーター(形式がボイラーとは異なっているため、ボイラーと呼ばれないそうです)が使われており、目を引いていました。

実際には施工スパンの配置、穿孔箇所、さらにはその他の制限により必ずしもこのような施工が可能であるとは限りませんが、今後の工実施にあたり少しでも参考になったとすれば主催者として幸いです。

最後になりますが、見学会開催にあたり、全面的にご協力いただきました環境開発興業(株)、(有)北九州清掃美化センター殿に紙面をお借りしまして改めてお礼を申し上げます。



写真2 到達側処置 (事前処置)

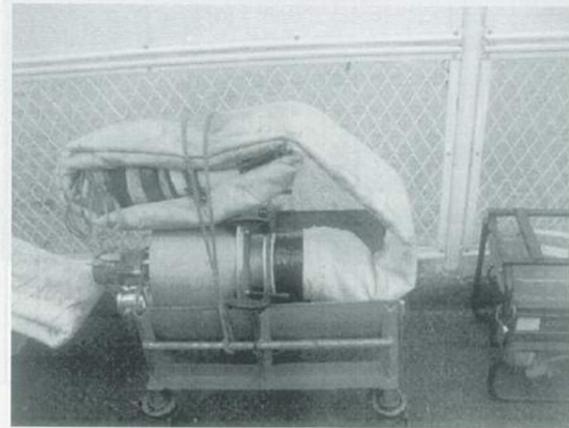


写真3 発進側立ち上げ治具



写真4 施工現場 (事前説明会)

表1 スケジュール表

件名：朝日ヶ丘地内管渠更生工事

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
1) 第4工区 φ200TP L=47.60m、 2スパン 取付管穿孔3カ所	・洗管、止水 ・TV調査		・ライナーホース引き込み ・ライナーホース拡張、加圧 ・加熱硬化(+80℃養生) ・温水冷却		・管口切断		・TV調査 ・取付管穿孔			
2) 第6工区 φ200TP L=27.40m、 1スパン 取付管穿孔2カ所	・洗管、止水 ・TV調査		・ライナーホース引き込み ・ライナーホース拡張、加圧 ・加熱硬化(+80℃養生) ・温水冷却		・管口切断		・TV調査 ・取付管穿孔			
3) 第3工区 φ200TP L=51.00m、 2スパン 取付管穿孔6カ所	・洗管、止水 ・TV調査				・材料積込み		・ライナーホース引き込み ・ライナーホース拡張、加圧 ・加熱硬化(+80℃養生) ・温水冷却		・管口切断	・TV調査 ・取付管穿孔

* 第4工区、第6工区……2系列施工
* 第3工区 ……1系列施工



写真1 事前準備見学 (於：環境開発興業(株))

が行われました。このスケジュールを表1に示します。これを見るとわかりますが、最初の工区(第4工区)の加熱養生中に次の工区(第6工区)のホース引き込みを行い、最後の第3工区は第4工区施工後調査および第6工区の管口切断中に実施することになっていきます。加熱養生中は一種の手待ち状態ですのでここで別の作業を行うことはいわば常套手段ですが、そ

れだけではなく施工クルーも幾つかの班に分けて並行作業を行うこともひとつのキーとなっています。限られたメンバーでこれを実現するには「各人の役割分担を明確にすること」が非常に重要です。

また、先般材料メーカー名とともに皆さんにお知らせいたしましたALOFの採用により養生時間が短縮されたことも施工スピードの向上に一役買っています。

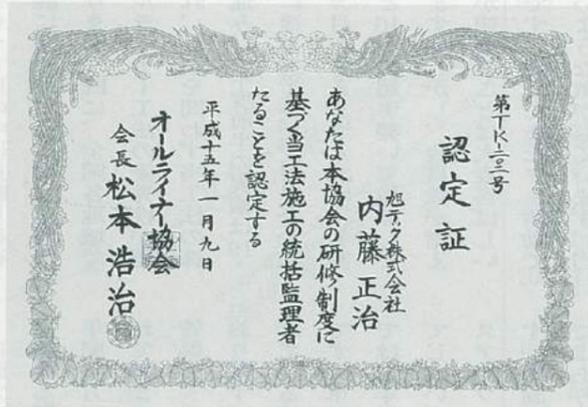
その後、環境開発興業(株)へ移動し、どのような事前準備を行っているかを見学しました。ホースの到達側処理は現場でも時間のかかる工程のひとつですが、あらかじめ材料を納入させることで到達側処理を現場搬入前に済ませています。また、発進側の余尺を少なくするための工夫として、立ち上がり部分のホースを共用化し、人孔内で材料と接続するようにして



技術管理者で 統括監理者の方 (11名)

㈱ナインステイツ	小峯健志
㈱武末建設工業	佐々木治
㈱協同清美	塚原勇一
大幸住宅㈱	平野秀央
岩田光市	松本康志
サンデック㈱	五月女久勝
妹尾産業㈱	三重野吉美
肥後修	佐川雅人

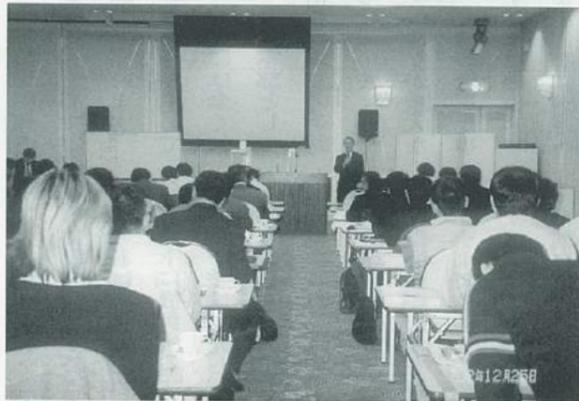
(累計合格者 283名)



オールライナー協会 ALL LINER ASSOCIATION
統括監理者 認定証

氏名 内藤正治
生年月日 昭和31年2月14日
発行日 平成15年1月9日
合格者No. TK-202

上記の者は当協会主催の統括監理者試験に合格したことを証します。
オールライナー協会 会長 松本浩治



質問に答える講師 (同右)



統括管理者研修会 (名古屋会場)

オールライナーニュース vol.11 ('03 新春号)

編集責任者 オールライナー協会広報委員会
〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目29番6号
(浜松町セントラルビル7F)
TEL 03(5408)3621 FAX 03(5408)3622
編集制作:月刊下水道編集部
印刷:株式会社誠信社

編集後記
14年度を振り返りますと、会長の交代、各種委員会の再編成等による体制の強化、また、公開デモ、施工研究会と内容の濃い1年でした。相変わらず厳しい経済状況が続く、この2、3年が一つの勝負どころと思われ、会員皆様の総力を結集して攻めの事業展開が大きな成果につながることを願っております。
今回、下水道サービス分野にも市場開放の波が押し寄せると考えられることから、ISO/TC224下水道国内対策協議会の顧問をしていただいております。菅清工業㈱の長谷川健司社長様へ寄稿をお願いいたしました。この場を借りて、長谷川様には寄稿の御礼と今後とも多くの情報提供をお願いいたします。次号は10月中旬発行を予定しておりますので、皆様のご意見をぜひお寄せくださいますようお願いいたします。

統括監理者研修会会場

開催日	会場	受付時間	研修会	試験
平成14年 12月25日(水)	ホテル ルプラ王山 名古屋市千種区覚王山通り8-18 Tel 052-762-3151	9:00 ~ 10:00	10:00 ~ 14:30	14:40 ~ 16:00
平成15年 1月9日(木)	芝弥生会館 東京都港区海岸1-10-27 Tel 03-3434-6841	〃	〃	〃

平成14年度 統括監理者筆記試験問題

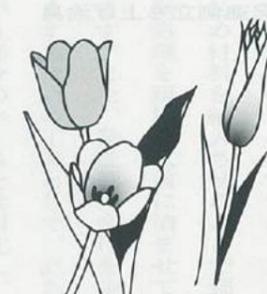
●注意事項
・問題の構成は、Ⅰ共通問題、Ⅱオールライナー工法、Ⅲサイドライナー工法、Ⅳパートライナー工法、Ⅴパートライナー工法10問
・Ⅳパートライナー工法10問
・Ⅴパートライナー工法10問
・試験時間は100分です。
・1つ選んで解答下さい。
・正しいものか誤っているものを4問択一方式です。
・問題数は50問

合格者名簿

神稲建設(株)	小池芳俊	和野卓雄	畑真夫	和野卓雄	稲見宣行	永野孝明	中久木晴晃	山口裕之進	服部恵治	酒井秀夫	柴田茂博	蜂須賀誠二	徳山泰旭	西山年春	長谷川元	山崎裕也	津路昭彦	與那原宜信	武田貢作	南野篤史	大久保秀紀	土肥知巳	稲葉綱史	桐原貴博	渡邊崇	石井崇寛	大城善昭	勝間田剛	金田尚喜	近藤忠厚	林厚	宮下慎也	松井俊和	赤羽治喜	三輪芳久	水野敦嗣
---------	------	------	-----	------	------	------	-------	-------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	----	------	------	------	------	------

(91名)

青木清掃(株)	及川善之	佐藤史久	五十畑幸次	堀口菊夫	野本哲也	石崎光広	岩田康弘	加納啓有	熊倉英敏	菅野実	桜井芳明	星野岳人	富樫隆教	太田貴博	石嶋三千夫	松元清志	與井雅一	的場辰雄	杉山進	寺田祐典	山下洋司	小井土忠之	斉藤一彦	三浦千秀	澤田守夫	三澤孝至	内藤正治	中根憲二	中村妙子	小池瑞穂	安原祥二	河内山正英	吉田有伴	杉本良雄	東久雄	高御堂幸男	眞弓敏治
---------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	-------	------	------	------	-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-----	-------	------



トウヨウ(株)	山井雄太	長谷川誠一	北村寛
動栄工業(株)	松島良二		
日本下水道管理(株)			
㈱西栄建設	野村一也	金山泉	

事務局だより

事務局長 中根 憲二

会員の皆様ご機嫌如何ですか？
 良い年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は協会運営に多大なご協力をいただきまして、誠に有難うございました。お蔭様をもちまして、当協会は222社となり、益々拡大の道を歩んでおります。

さて、昨年の行事を振り返って見ますと、工法説明会・公開デモ、下水道展等が各地区で実施され、その際開催地域の所属する支部の皆様には、絶大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、協会内では施工研修会・技術管理者試験・統括監理者試験等が実施され、会員の皆様の技術の向上が図られました。

さらには、技術委員会・広報委員会・総務委員会・青年部会の開

催が頻繁に行われ、中身の濃い成果が着々と現れてきています。これらは偏に会員の皆様の自発的な協力によるものであり、オールライナー工法を如何に優れた工法にしていくかを真剣に考え、技術の向上をもって世の中に貢献し自社の発展に繋げていこうとする行為であります。既に、全国各地域でオールライナー工法の優秀性が認められ、官民を問わず当工法の採用が進み、本年度前半の実績は19.4kmに達し(平成14年11月末、残り4km)を考えますと30kmは勿論のこと40kmを超す勢いで推移しております。しかし、会員数が増え実績が伸びることは大変喜ばしいことですが、まだまだフル活動ではないような気がしています。当協会の目標は施工会員の集団にし

ようということですが、施工機械も増産はしておりますが、一部では手一杯という地区も出ています。折角のビジネスチャンスを潰してしまうのは、今の時代には全く勿体無いことです。協会本部としては、会員の皆様相互の調整の手助けができればと考えています。そのため何をやすべきかが重大な問題です。まず、今後の管更生事業を考えてみますと、そのシェアは膨大であります。既に34万kmに達する埋設管渠があり、さらに年間1万km以上の新設管が敷設されています。すぐに補修が必要なおりあります。しかるに、現在再生されている管渠は年間240km程度です。単純計算してもこのペースでは20年以上の歳月が必要になってしまいます。したがって、ペーシングが確実に要求されてきておおく必要があると考えます。即



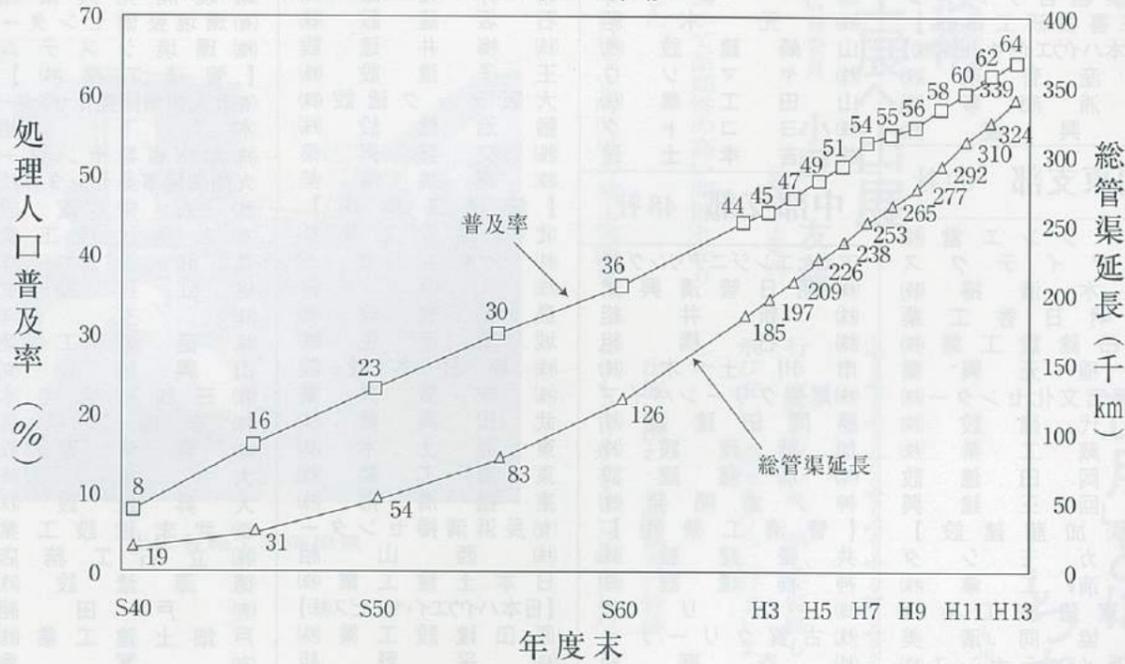
左から中根、喜多野、犬伏

ち、機械・資材・人材を提供できる体制を確立することです。幸い開発者は「信頼される良い物をユーザーに提供する」という考えで、工場を整備拡充し、環境にやさしいALOFシステムを世に送り、機械を改良し人材を育てて高効率施工を可能にしています。これが協会が自信を持ってオールライナー工法他6工法を世に送り出す所以です。会員の皆様の誇りと自信に繋がるよう努力し、その結

果として、さらなる会社の発展が望めれば大変嬉しく思います。次に将来の希望としては会員会社のランクアップが考えられます。発注形態として管更生は元来維持管理の分野から発展してきたものだと考えますが、現在は一般土木の分野になっていきます。維持管理を主体とした明かり工事(土木工事)を含む出件が多くなると考えられます。即ち、維持管理の事業費よりも高額の予算が必要になる

業種になってきているということですが、したがって、ランクをアップさせないと直接受注の機会が失われてしまうのです。他社にはできない専門の技術を持っている訳ですから、その技術力をもっと高く評価してもらいべきです。そして、発注者より直接受注できる体制を持つことが、さらに社会に貢献できる早道と考えています。下請負ではなく元請負のできる集団にしていきたくと考えています。社会資本整備の中で、ストックの機能向上および延命は今後避けては通れない問題です。その一翼を担える業種として社会に認めさせるような行動がこれからは必要と考えます。協会本部は、あらゆる方面の情報を収集し、それらを種々の断面から分析検討し、今後の行動計画に反映させていただきます。そして、会員の皆様のご協力を得まして、大きく飛躍したいと考えますので、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

処理人口普及率と総管渠延長の推移



オールライナー協会

青年部の活動

オールライナー協会青年部 事務局長 今津 真治 (トニー氏)

今年度は分科会活動の強化とITを生かした活動が、大きな目標として掲げられています。分科会活動は、各リーダーが独自性を発揮して、計画を立てて活動に取り組みしております。ITについては、従来はFAXや郵便を利用して連絡等を行っていましたが、順次メールの配信に移行しつつあります。

また本部から、積算CD改訂ワーキンググループとカタログ・広告等の見直しワーキンググループに青年部員が委嘱されました。最近の年賀状は、写真を取り込んだり、画像を編集したりして、自分のパソコンで作成している人が多いように思います。年賀状作成ソフトは、多くの種類が発売されており、電話番号を入力するだけで、住所や名前が登録できたり、取り込んだ写真を自由に編集でき

たりする優れたものです。しかも簡単に作成できてしまいます。簡単に完成させることができるけれど、作成過程にはいろいろなことが起こります。私の友人は、作成途中に突然の停電！今までのデータが一瞬にして消えてしまいました。また、印刷をセットして出かけて、帰宅してみると、すべて表裏が逆！などなど……。これらは、機械が悪いのではなく、予期せぬトラブルや人為的なミスです。

すばらしい機械でも、使うのは人です。ITを生かした青年部活動を目指していますが、ITは手段であって目的ではありません。ITの技術の力と青年部の熱い若者の力で、新しく力強い前進をしたいと思っております。今年も、青年部の活動にご指導、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

下水道更生工法の

説明会を開催

中部支部
大関 義昭
(トウヨウ株 常務)

過日、新潟県土地改良事業団体連合会の研修にて、更生工法の説明会が開催されました。当日は大変天候の悪い日でありましたが、100名近いご来場をいただき、盛況に終えることができました。協会をはじめ、関係者の皆様にはご協力ありがとうございました。

・日程 1月20日(月) 13:00～16:30

・場所 会場 県土連ビル「講堂」
・内容 管更生事業の現状と展望



説明会風景

建設CALS/ECが

いよいよ本格化

関東支部 広報委員 **藤原 秀幸**
(藤原建設株)

国ばかりでなく各地方自治体においても、建設CALS/ECが、いよいよ本格的に導入されるよう
なっている。川崎市においても、今年4月から、各種変更届の提出がインターネット上で可能

となり、秋以降には、電子入札の一部導入が予定されている。

パソコンにしても、インターネットにしても、慣れてしまえば、非常に便利な道具であることは間違いない。特に中小零細な業者にとっては、少ない人員でより大きな効果を得ることができるといって、今後欠くことのできないものとなるであろう。

鹿児島における協会の歩み

鹿児島県管更生工事協会 事務局長 **林 英昭**

当協会の発足、ならびにこれまでの経過は、決して平坦な道ではありませんでした。今の日本の経済情勢が不透明であるように、当協会も先行きが不安な状況での発足でありました。会員にとっても、管更生工事という分野は、未知の世界でありました。しかし、このままでは受注は確実に減少いたします。個々には、それぞれ何か新規の事業を始めなければ先細りに

しかし、問題点もある。導入にあたって、システムの一元化が図られなければならないことである。このことは、各役所による違い、また同じ役所内であっても、各部署による違いが、現に存在しているというところからも、推察できる。競争入札参加申請をする時期になると、感じることもある。

なるという危機感がありました。なかなか決断ができません。そのような中、当協会の会長より、コスト削減の中でも市場拡大が見込まれる事業として、「下水道の内面更生工法であるオールライナー工法」というすばらしい工法があり、そのために協会を設立する旨の話があり、平成12年3月に今の協会を設立致しました。しかしながら、すぐに役所から

指名がいただけるようなことはありません。オールライナー協会の甚大なるご協力のもと、研修を重ね、準備期間を含め約2年半が経過して、晴れて指名がいただけるようになりました。現在は、施工実績もできて、会員との間にも今までの以上の協力関係ができました。

今、協会の事務局として大きな満足感を感じております。併せて、これまでの困難に協力いただきました「オールライナー協会」をはじめ、当会員の方々の全面的なご協力に感謝いたしております。これからも希望をもって頑張ります。



「施工実施体験報告」風景
現場代理人 鈴木博喜氏
(株)川西建設